

7月の花

ヤブカンゾウ ススキノキ科 (ユリ科)

Hemerocallis fulva L. var. *kwanso* Regel

佐賀県内では主に山間部の畦や林の縁などに群生する多年草。中国から観賞用か食用として持ち込まれたものが野生化したと考えられている。根はところどころ紡錘状にふくらむ。葉は長さ 40～60cm、幅 2.5～4cm の広線形。花茎は高さ 0.8～1m になり、直径約 8cm の橙赤色の花を数個つける。花は、雄しべだけでなく時には雌しべも花弁化して八重咲きになるのが特徴。花弁化していない雄しべも混じっていてかなりの変異がある。花期は 7～8 月。花筒は長さ約 2cm で結実はしない。

似た花にノカンゾウ (右下写真 武雄市) がある。雄しべや雌しべがヤブカンゾウの様に花弁化せず、ユリの花の様に 6 弁が細長くすっきりしている。花期はヤブカンゾウより遅く 8 月～9 月。

「カンゾウ」の名は漢名の「萱草」を日本読みにしたもので、ヤブカンゾウは藪のような場所に生育する萱草という意味。また、中国に「この花を見て憂いを忘れる」という故事があり、「忘れる」に萱の文字を当てることからワスレグサとも言う。薬用としては蕾を解熱に、根を利尿に用いる。また、山野草の料理として若葉を酢味噌和えや炒め物などにする。 (井手義信)



2018.6.22 神崎市千代田町

(参考文献) くまもとの山野草クッキング、新・佐賀の薬草、検索入門野草図鑑ユリの巻